

コツコツと積み重ねて 97周年

古川黎明中学校・高等学校 校長 阿部 修一

関東支部同窓会のみなさまには、平素より本校の教育にご理解をいただき、物心両面にわたりご支援・ご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

ふるさと大崎では、遠く栗駒山や荒雄岳、船形連邦などの峰々の残雪と澄みきった青空を背景として、新緑がまぶしく広がる心浮き立つさわやかな季節を迎えております。

こうしたなか、本校では、中学校1年生から高校3年生まで、「コツコツが勝つコツ」をモットーに一人一人が勉強に部活動に頑張っております。今年の夏は、全国高等学校総合文化祭(みやぎ総文2017)が宮城県で開催されるとともに、全国高等学校総合体育大会(南東北インターハイ)が宮城、山形、福島県の3県で開催される運びです。みやぎ総文2017への出場校はすでにほぼ出そろっており、本校では写真部と軽音楽部、コーラス部(選抜7人)、吟詠剣詩舞愛好会が出場する予定です。一方、南東北インターハイは、県高総体あるいは東北大会の結果で出場が決定されます。本校では、短距離と投擲で実績のある陸上競技部や、少数精鋭で頑張っているなぎなた部のインターハイ出場が有望視されています。また、昨秋の新人大会で東北大会出場を果たし、県の強化チームの指定を受けた男子弓道部のインターハイ出場も大いに期待されているところです。

昨年この欄で、平成28年度中に旧校舎跡地に新グラウンドが完成する予定である旨のお話をいたしました。その後の諸般の事情で着工が遅れが生じてしまったことから、竣工時期は今年の秋口にずれ込んでしまいました。しかしながら、新グラウンド完成の暁には、野球場が新設されるとともに、サッカー場、ソフトボール場、弓道場、テニスコート、ハンドボールコートなどがリニューアルされ、県内の公立高校の中では有数の充実した施設・設備を誇る学校となります。部活動のますますの活躍がとて楽しみです。

本校は、今年度、創立97周年となり、3年後には大きな節目となる百周年を迎える運びです。そこで、昨年度から校内準備委員会を立ち上げ、記念事業の準備に取りかかり始めました。百周年記念事業達成のためには、同窓会、PTA、学校とが三者一体となる協力が不可欠です。同窓会の今一段のお力添えをいただければ幸甚に存じます。

古川黎明中学校・高等学校が、先輩がたの築き上げた輝かしい伝統を受け継ぎながら、将来的にますます発展していけるように、関東支部同窓会のみなさま方のご支援とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

校歌に寄せて

古川黎明高校(旧古川女子高) 同窓会 会長

千葉 典子

昨年、三本木支部の交流会が古川の吉野作造記念館で開催されました。館長さんの講演を聴きながら、100年前の民主主義の黎明期と母校の歴史の黎明期が重なることに、思いあたり感無量のひとときでした。

吉野作造は古川十日町で生まれ、古川尋常小学校(現・古川第一小学校)、古川高等小学校(現・古川中学校)を卒業しました。日本を代表する政治学者です。大正5年「民本主義」を主張する論文を発表し、一躍論壇の中心となり、これが後々の日本の民主主義の大切な礎となりました。この4年後の大正9年に地域の熱望もあり、我が母校の前身、古川高等女学校が創立されました。そしてその9年後の昭和4年に土井晩翠の作詞による校歌が制定されたのです。吉野作造の民本主義が大きな反響を呼び、普通選挙の実現に向けて、世の中が少しずつ動き始めている最中のことです。天井の高い、少し薄暗い講堂に整列し当時の背広型の上着で、胸元にはリボン、紺のひだスカート、そしてラシャ地を梅の型に切った校章を胸につけて、「ああ思え、国の未来の栄えこそ女性の力、水絶えぬ郷に匂える学び舎の我もその数」と声を合わせて歌った先輩たちは、どのような思いをこの校歌にこめたのでしょうか。

この校歌の4番は、母校が男女共学になった時に、残念ながら歌われなくなりましたが、校歌として残された1、3番は古女から黎明中・高等学校へと受け継がれ、新しくなった校舎に響き渡っています。母校の変換期に校歌を残していただいたことに、同窓生の一人として感謝の念でいっぱいです。

期せずして吉野作造記念館を訪れたことが、消えた校歌、残された校歌に思いを馳せることになりました。どうぞ折がありましたら記念館を訪れてみて下さい。この4月から氏家仁先生(黎明高校元校長)が館長になられましたので、お会いすることがあるかもしれません。

校歌4番の「学び舎」(旧校舎)

旧校舎跡地は 新グラウンドに…



40年目の仲間入り

石谷 真喜子(S48 卒)



千葉の南端、歩いて海に行かれる所で中学校美術の講師をしております。この度、「第24回 旧古川市内四校新年の集い」に出席して参りました。大変、大掛かりなもので、ふるさとの古川からは町長、各高校の学校長、事務長、本部役員の方々数多く上京されて、打ち解けた中にも 引き締まるものがありました。

会の開催中は上野精養軒の料理に舌鼓を打ちながら、近況報告したり、自己紹介したりして、70代の方は「血のめぐりが良くなって 生き生きと 生き返ったようだ。」とおっしゃっていました。

関東に住んで、今年で40年目ですが、心強い方々の仲間入りが出来たことを嬉しく感じております。まだまだ、この様な集まりがある事を知らない同郷の方がいらっしゃると思います。ネットワークを広げ 語り合い、楽しみ合いたいものです。

2017.3.13 藤岡奈穂子チャンピオン(H6 卒) 世界ボクシング 4階級制覇!!

(①ミニフライ級 ②スーパーフライ級 ③バンタム級 ④フライ級)

同窓会でもず〜〜と応援し続けている 3階級制覇の藤岡奈穂子チャンピオンが、4階級目の「フライ級」王座決定戦に挑み、見事に勝利しました!! …日本での試合が、3.11に近いこの日になったのも きっと意味があったのです。ふるさと宮城の人々も勝利を喜んでいるはず。

時は2017年3月13日。WBA世界女子フライ級王座決定戦。対するは イサベル・ミジャン(メキシコ)。

藤岡チャンプを応援する人が 試合をする度に 増えて 増えて、今回もあふれんばかりの人人人で埋め尽くされた後楽園ホール。藤岡チャンプが登場すると、地鳴りのような応援コールが響き渡ります。髪は銀色、コスチュームも情熱の赤に変え、上腕二頭筋がムキムキ、鋭い目のチャンプ、気合い十分です。

2ラウンドでダウンを奪った時には、早くに勝敗が決まるのかと思いましたが、相手も粘り強くて なかなか倒れません。一度ダウンを獲られた相手は、捨て身で技を振り回したり抱きついたりしていたように見えました。一発でも当たったらこわいなと思いましたが、藤岡チャンプは見えていました。さえていました。そして「そこから?」というような遠い位置から 腰も振りきって前傾になって相手のふところに飛び込む。それを連続でするから疲れなわけがない…と心配しましたが、当のご本人はさすが最後まで攻め続けました。最終ラウンドまで毎回、開始ゴングの前には相手よりも早くに立ち ステップを踏み なかなか立てない相手を待っていました。

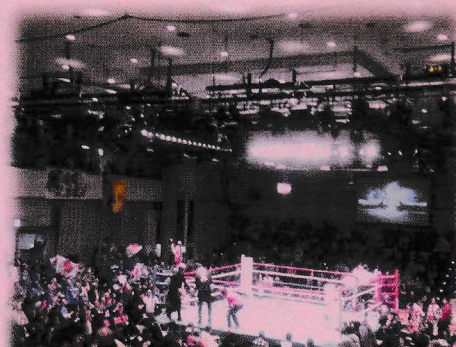
藤岡チャンプがあまりにも強くて圧倒的すぎるため、レフリーが試合を止め、TKO 勝利!! リングで藤岡チャンプを肩車をしているのは… あっ!!モニカの吉川晃司さんだ!! しかも同じ髪の色。

今回もまた、応援しに行ったのに、応援されている気分になった試合でした。藤岡チャンプ、日本人初の4階級制覇、おめでとうございます。そして、素晴らしい 勇姿をありがとうございます。

年齢も性別も関係ないほどに驚異的な強さを持つ藤岡チャンプですが、しかし繊細な心も持ち合わせています。どうか体と心を大事にして、ゆっくり休んで充電してください。わたしたちは、5階級も、あなたの人生もずっと応援しています!!

同窓生の皆様、また会場でお会いいたしましょう!!
みんなで応援すっべし!!

(文責: 藤岡チャンプと同期 H6卒 吉田祥子)



* れいめい世代 *

自分なりに考え 工夫し 行動する

瀬ヶ沼安寿(H24 卒)

文頭にあたり、中高の縁は忘れた頃にひょっこり現れるということ、特に後輩の皆様へお伝えしたいと思えます。そしてそんな時は、あえて話に乗ってみるのも一興と思えます。

私は県内の公立大学へ入学し、食を支える環境について学びました。生き物が大好きで食いしん坊な私にとって、食という人にも自然にも密着した分野は進む道として外れていないだろう、と考えたからです。大学では、「学生らしく学生する」をモットーに6つのサークルに入り、所属学科を超え、大学も越えて年齢も立場も様々な方と出会いました。人付き合いは苦手な億劫ですが、人との出会いはいつでも刺激的で発見の連続です。

大学で繋いだ縁がきっかけで、食を支える農業土木の世界に足を踏み入れ、現在県農業土木職員として2年目を迎えました。先輩上司から容赦ないご指導を賜り、自分の詰めの甘さや考えの至らなさに後悔と反省の毎日です。仕事相手に思いやりを欠かさないと、仕事は冷静な判断をした上に情熱を付加することで結実すること、仕事でケンカするときは相手の退路を全て絶つこと…。今はまだ理解できなくとも、日々の積み重ねから少しずつ身に付けて力にできればと思います。

社会に出ると、大抵の人がまず仕事のやり方に悩むと思えます。そんな時、例えばノートの取り方を自分なりに工夫した等、自分の頭で考えて動いた経験は、ヒントになり得ると思えます。

勉強も 就職も “なんとかなる”

後藤淳基(H25 卒)

おはようございます。私が過ごした中学高校時代6年間を振り返って、後輩に伝えたい事、取り組んでほしいことが3つあります。

1つは勉強に関する事です。私の中学高校時代の学習状況について紹介すると、中学高校6年間いつも定期考査で40点取るか取らないかの点数を取る生徒でした。私の経験をふまえて後輩に伝えたいことは、人それぞれ理解までにかかる時間が違うこと、わからないことをそのままにしないことが大切であることを伝えたいです。

2つ目に就職に関する事です。中学高校のみなさんにはまだ先の話になるかと思いますが、就職の話をしてほしいと思えます。私は高校時代に東日本大震災を経験し、インフラやライフラインの重要性を改めて感じました。この経験からライフラインに携わる仕事がしたいと考え、大学卒業後は東北地方の電力ライフラインに関わる仕事をしています。後輩のみなさんには進学先の卒業後に具体的にどのような仕事をしたいかということを見据えた進学をしてほしいです。

3つ目に進学に関する事です。高校時代の進路指導の先生が言っていた“なんとかなる。”という言葉覚えていてます。当時その言葉を聞いたときは特に何も感じることはありませんでした。その後はなんとかギリギリの成績で高校卒業し、大学に進学しました。この成果は高校3年生のとき、中学高校の基礎の基礎から勉強し直したことや、大学では中学高校時代の経験をふまえて勉強に取り組んだことが無事に大学卒業と希望した企業の就職に繋がったのを感じています。今思えばこれが進路指導の先生が言っていた“なんとかなる。”の本当の意味だったと実感しています。

古川黎明の後輩のみなさんにも進路指導の先生が言っていた“なんとかなる。”という言葉を送るとともに、今後も良い意味で“なんとかなる。”ように応援しています。

同窓会は、会員の皆様からの
維持費(一口1000円)のご協力により運営されています。
ご協力の程よろしくお願ひ致します。

facebook 古川女子高・黎明高～同窓会関東支部～
[https://www.facebook.com/古川女子高黎明高同窓会
関東支部-1568045320100530/](https://www.facebook.com/古川女子高黎明高同窓会関東支部-1568045320100530/)

編集後記 この数年、そして今年もまた、古女高時代を共に過ごした
仲間のお子さんが、黎明中高に入学しました。

入学式で先輩が披露する新入生歓迎の校歌は、清く正しく美しく信念を
もった心の象徴であり、今も尚受け継がれていることを聞き、胸を熱してい
ます。近況等を編集部にお寄せください。お待ちしております。

shou.k-1@ezweb.ne.jp 吉田祥子(H6 卒)まで
尾木成子(S38 卒) 加藤恵子(S41 卒) 大上とも子(S60 卒)



「ひとめぼれ」の緑の波 宮城県大崎平野: 8月